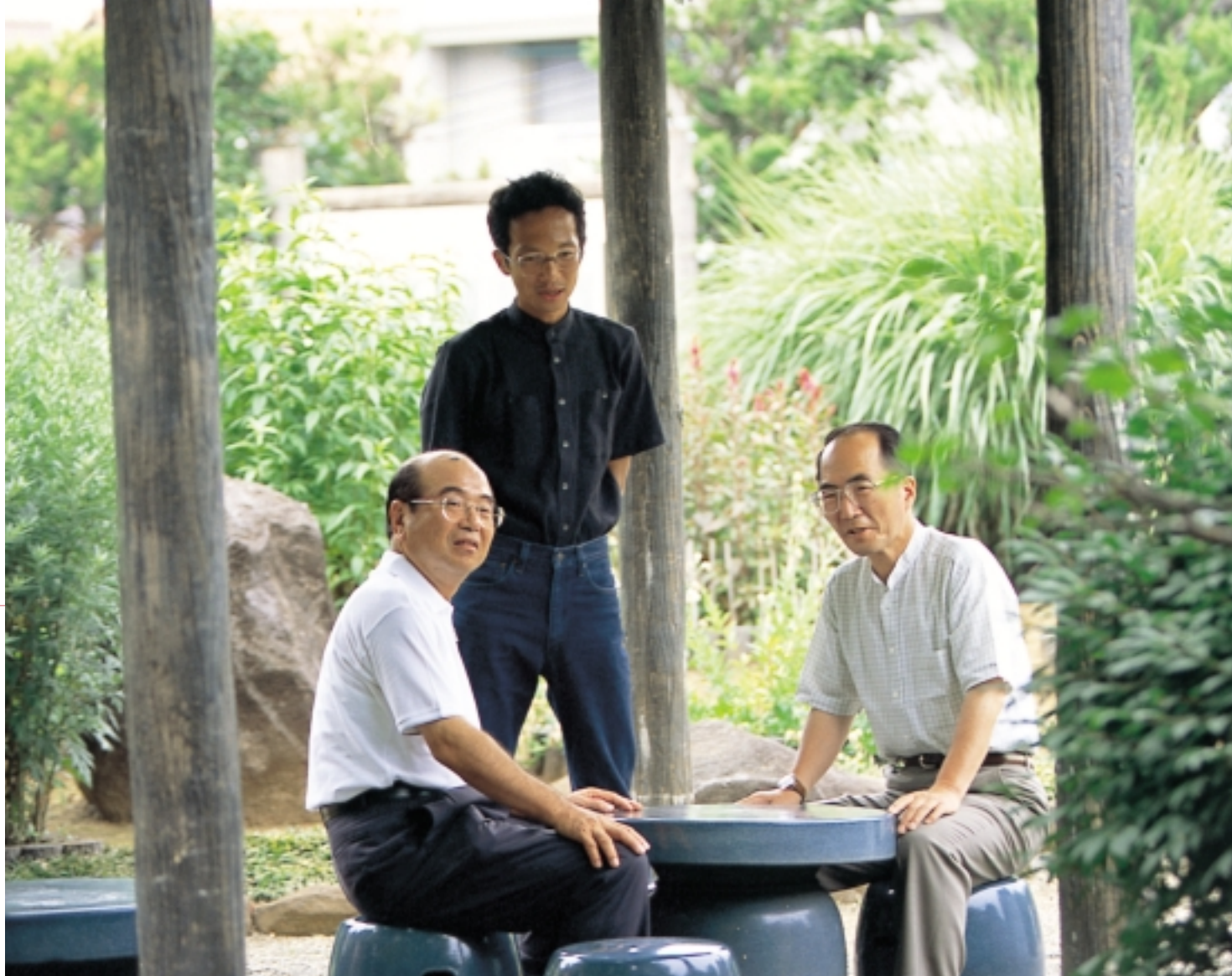


# 市川に残る 素晴らしい自然の 遺産を 未来に受け継いで

市川高等学校理科(生物)教諭 市川自然博物館学芸員  
**石井信義さん + 金子謙一さん**  
Nobuyoshi Ishii Kenichi Kaneko  
聞き手=千葉光行 市川市長  
Mitsuyuki Chiba

万葉集の研究施設であり、198種の万葉植物が植栽されている万葉植物園に、市川高等学校理科教諭の石井信義先生と市川自然博物館学芸員の金子謙一さんを迎え、市川の身近な自然、花と緑の楽しみ方について語っていただきました。



身近な自然で、  
楽しみながら  
ボランティア

**金子** 市川も動物園や観賞植物園、バラ園ができたことで今まで自然公園しかなかった時代には来なかった人が来てくれるようになりました。最初は動物園やバラが目的のかたがちょっと足をのばしてみようとあの奥の湿地帯に行つて。例えばおじいちゃんが孫を連れてきたときにおじいちゃんはバラ園目的で来ていても、お孫さんは湿地帯で魚や亀を見つけると、子どもの目はキラキラと輝きます。自然公園の方に

も今まで考えなかったような人数が行くようになったので随分プラスの面が大きいです。  
**石井** それ呼び水となって、大町の自然観察園に近いものが大柏川調節池や国分川など、いろんなところでつくろつという、似たような発想がありますね。これは多自然型といつても保全ではなくて新しくつくり出すという色合いが強くなってきているようです。  
**千葉** 大町にしてもここにしてみてもつ歴史という長い時間がかからないうと次ができてこないということもまた事実です。そこで必要なのはどこまで入つていいのか、どこまで取らせて

地元を根をおろした  
まちのなかの  
自然、万葉植物園

**千葉** 私はこの万葉植物園に年に何度か来ますが、今日のようなこういふ機会ができてよかったと思います。これだけの植物があるということはまだ市民の皆さんにあまり知られていないと思うんですよ。万葉という形のなかでの位置付けがあつてこれだけ整備されているのですが。

**石井** このような施設は奈良の本家本元春日大社のなかにひとつありますが、昔からみんなが知つている万葉集とのかかりあいで造られた植物園は、全国的には意外に少ないですね。

**千葉** この万葉植物園は万葉のネーミングがいいし、歌と植物というのがいいね。

**金子** 万葉植物園はバラ園などと違って一度に花が咲くわけではないですから、逆にちょっと来ただけではこの良さはわからない。文学でも植物でもその道に詳しい人が説明してあげるといいですね。冬にも冬を楽しむがありますし。  
**石井** 万葉時代の人が親しんだものが今に蘇りますからね。

**金子** そういう意味ではかめばかむほど味がでるような所ですね。

**千葉** 動物園の方もホタルやヤマユリやモミジ、バラというポイントができてようやく市民の人たちの目が向くようになりました。そうするところいうところやはり万葉の歌と花や緑という形で市民に目を向けてもらつて子

いいのかといったルールづくり。きちんとしたルール、自然とのふれあいの時のマナーというのを守つてもらわないと、自然はどんどん崩れていつて壊れてしまいます。自然のことを知らないで自然を壊してしまうことになりまますから。

**石井** そうですね。公園づくりに関しても、例えばイギリスの有名な植物の聖地・キューガーデンはとても規模が大きいところなんです、そのバラ園は朝、ボランティアのかたと公園のスタッフで昨日咲いた花で、ちょっとでも枯れた花びらは全部取つていきます。その日その日完璧な状態で市民のかたが観賞できる。公園のスタッフのあり方、ボランティアのあり方はいくついい面があるんだと思いました。

**金子** バラ園の管理にきているボランティアのかた自体が楽しんでいくといいですね。

**石井** 市の公園関係のかたと綿密な打ち合わせをして、この公園はこういふふうにしていこう、こういふふうにするようにしようときちんと計画しているようです。

**千葉** ボランティアの面でいえば、ようやく日本全体でも市川市でもそうですが、ガーデンクラブができたたり、ワークショップを作つたり、できあがつた後も管理をしようという動きが出てきました。自分たちのまちは自分たちでつくり、自分たちの公園を管

万葉植物園に設置されているパネル。万葉集に登場する植物が歌とともに紹介されている。



どもたちにも興味をもってもらふことが、次のステップの自然とのふれあいをつくつていくことになるんでしょね。  
**金子** 今の子どもたちはテレビゲームをやつたり、1日中冷房のなかで暮らしてまふけど、本当は自然が大好きですよ。虫が目の前にいると目を輝かせて採りたくなつたり、本質は変わつていませんよね。

**石井** そうですね。今に身近な施設や自然よりも、遠くに豊かな自然があればそつちへという発想があるんですが、やはりこういう地元を根をおろした、しかもまちのなかに自然を残すということが時間的にも金銭的にも回数的にもものすごく利用効率がいいわけですよね。



大野緑地内の平坦部に和風庭園(池泉回遊式風)が設けられた万葉植物園。

理するといふムードが今湧き上がつてきています。言う以上はやりましようというように、時間がかかるかもしれませんがだんだん形になつてきているのではないのでしょうか。自然観察園のボランティアのかたはどうですか。  
**金子** 自然観察園では野草がたくさんあつて、なかなか名前もわからないし小さいものが多いので、今年から毎回20人くらいの市民のかたが手伝いに来てくださっています。つぼみの時に名札をつけて、自分で名札つけた花が咲いたのを見に来る楽しみがあると、この話も聞きます。名札つけも、花壇づくりもそうですが本質的に楽しいことがボランティアの心につながつていくのだと思います。